

第2回事前調査検討専門部会・SSP事前打合せ
議事録(案)

日時：2003年12月17日(水)14:00~16:00

場所：海洋科学技術センター東京連絡所 役員会議室

出席者(敬称略)

部会長：金田義行(JAMSTEC)

委員：荒井晃作(産総研：コンソIODP部会執行部)・岡野正(JAMSTEC)

・金松敏也(JAMSTEC)・佐藤比呂志(東大地震研；SSP委員)・日野亮太(東北大学)・山本啓之(JAMSTEC)

SSP委員：沖野郷子(東大海洋研；SSP co-chair)・野木義史(極地研)・朴進午(JAMSTEC)・保柳康一(信州大)

コンソーシアム担当者：徐 垣(JAMSTEC)

事務局：田口とも子(AESTO)

オブザーバー：川村善久(CDEX)

欠席委員：

・芦 寿一郎(ORI)・加藤幸弘(海上保安庁)・田沢章広(帝国石油)

・辻喜弘(石油公団)・中西正男(千葉大学)・

議事次第(案)

- 1) SSP委員紹介
- 2) 次回SSPについて
- 3) SSP報告
- 4) 事前調査検討部会の役割
- 5) その他

審議

- 1) 事前調査検討専門部会の役割
- 2) 深海掘削とその周辺環境影響について
- 3) その他

内容

1) 出席されたSSP委員の紹介(金田部会長)

沖野郷子(東大海洋研; SSP co-chair)・野木義史(極地研)・朴進午(JAMSTEC)

保柳康一(信州大)・佐藤比呂志(東大地震研; SSP委員)

欠席 高野修(石油資源開発(株))、鶴哲郎(JAMSTEC)

沖野SSP委員(co-chair)からは、委員の任期を明確にしてもらう旨の要請があった。

これに対し、金田部会長より、原則1期2年とし再任が可能との見解が示された。

2) 次回SSPは2月11日~13日に東京で開催される旨が沖野委員より報告された。

3) SSP報告(沖野委員より報告)

IODP Database に関しては、現在、Data Bank WG は iPC にレポートを提出済み。

iPPSP と共同で立ち上げた Matrix WG では今後も議論を進める必要があるとの意見で合意した。今回、LDEO の Quoidback 氏から暫定的な Matrix 用ワークシートが提示された。

また、各プロポーザルにどんなサイトサーベイデータが必要とされるかについては、現時点ではプロポーネントから電子メールで質問を受け付け、それに答える形式にする方針である。

iPPSP からは、特にガスハイドレートを対象とするプロポーザルに関して、H₂S が出てくる危険性が指摘された。また、安全面の強化として LWD の必要性が強調された。

iSciMP から、IODP の3つのデータバンク(log, core, geophysics)の位置づけに関する説明がなされた。それらは個々に CMO と契約を結ぶが、3つのデータバンクを統括する組織として ISC(Information Service Center)を立ち上げる計画も示された。

4) 事前調査検討専門部会の役割(金田部会長より報告)

(1) 事前調査に関する情報収集(石油探鉱における物理探査計画等)

(2) 国内プロポーザルの事前調査アドバイス

(特に保柳 SSP 委員より、生態関連のプロポーザルでは、事前調査関係の研究者が少ないためアドバイスは不可欠との意見があった。)

データバンク/データベースの構築を本部会で構築する事は容易ではないが、資料の所在に関するメタベースについては CDEX の倉本オブザーバーが既にまとめた資料があるのでこれを参考に検討したい。

(3) 事前調査実施に向けての方策検討(国内の調査船の活用等が今後重要となる。)

(4) SSP の支援(事前調査検討専門部会との連携強化をこれまで以上に行っていく。)

審議事項

1) IODP 科学提案のための事前調査サポートについて(案)

(CDEX からの提案について岡野委員(CDEX)より説明)

内容: 高分解能の浅層反射法地震探査を念頭に、

- ・ J-DESC と CDEX がサポートすべき科学提案を検討する。
- ・ 事前調査、データ解析の PI を人選し、必要があれば事前の教育を行う。
- ・ CDEX が事前調査のための JAMSTEC 研究船公募を行い、データ解析に関しては PI とともに実施する。

との提案があった。

これに対して、

- (1) J-DESC の役割との住み分けが明確でない点
- (2) CDEX としてどこまで踏み込んだ支援が可能であるか等々の議論
- (3) (1), (2)の論点を整理して再提案することになった。

2) 深海掘削と周辺環境影響について（山本委員から報告）

- ・ 2003年8月に開催された10th Deep Sea Biology Symposium において深海生物群集の保全と保護の必要性を国連に表明するための動きがあり、科学調査に関しても「Within Ecologically appropriate constrains」が求められているようである。
- ・ IODP 掘削地点における生物調査の必要性を判断するための基準、生物調査方法、影響を最小限に抑える方策等々の IODP ガイドラインの検討が必要である。

議論では、

- (1) 国連への表明の動きについてももう少し情報を集める事、
- (2) IODP ガイドラインの検討については SSP および PPSP による議論が必要であり、生物調査をどの SSP あるいは PPSP のどの段階で要求するかが重要な点である。例えば科学提案は受理されたが、生物群集保護の観点で掘削ができないような状況への対応等が不可欠である。